

## はじめに

令和七年九月、東京で開催された世界陸上競技選手権大会では、国籍や文化の違いを越えてアスリートたちが互いに高め合う姿が、観客の心に深い感動を残しました。ゴール後に手を取り合い、笑顔で称え合う選手の姿、歓声と拍手で選手を後押しする観客の姿——そこには、競技を超えた深い尊敬と連帯がありました。スポーツの舞台が、国籍や文化の違いを越えて人と人がつながる力を持っていることを、私たちは改めて感じました。

こうした大会を迎えるにあたり、日本陸上競技連盟は、暴力やハラスメント、SNSでの誹謗中傷などの根絶を掲げた人権ポリシーと行動指針を策定しました。これは、選手や指導者だけでなく、観客やボランティア、保護者など、陸上に関わるすべての人を対象としています。「豊かな人権感覚を持つて多くの人を迎える」という思いが込められたこの方針は、スポーツを通じて人権を尊重する文化の広がりを目指すものです。

今年は日本が人種差別撤廃条約に加入して三十周年を迎える節目の年でもあります。この条約は、すべての人人が人種や民族に関係なく、平等に人権と自由を享受できる社会を目指す国際的な約束です。スポーツの舞台でも、日常の暮らしの中でも、互いの違いを認め合い、尊重し合うことが、よりよい社会への第一歩となるでしょう。

「はばたき」には、子供の豊かな感性で人権についてとらえた作品が掲載されています。思いやりに満ちた温かい心や社会の在り方を鋭く突いたまっすぐで純粋な気持ちにあふれた子供たちの文章には、人の心に響くものがあります。この「はばたき」が、学校や地域・家庭等で広く活用されること、手に取った方々が、他者の痛みに気付いていられるか、偏見や差別の種が隠れていないか、人権を尊重できているかなど、自分自身の心を見つめ直すきっかけとなることを切に願っています。

おわりに、すばらしい作品を応募してくださった児童生徒の皆さん、御指導いただいた学校の先生方、刊行にあたつて御協力いただいた編集委員の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和七年十二月